



2021. 6.28

発行：嶺南教育事務所

TEL：0770-56-1309（代表）

FAX：0770-56-1391

MAIL: reo-k@chive.ocn.ne.jp

「全職員による人権教育の日常化」

令和3年度 人権教育の進め方について



新年度が始まり約3ヶ月が経ちました。変異株の拡大により、引き続き新型コロナウイルス感染症対策が求められています。また、手洗い、消毒、マスク着用やソーシャルディスタンスなどの対策を十分にしているにもかかわらず、誰もが感染する可能性が高まっています。その中で、誹謗中傷などの人権侵害を防ぐためには「人権教育」が必要不可欠です。これは、単に対策徹底の呼びかけやできていないことを注意するのではなく、「もし自分自身が感染したら」、「もし家族や兄弟が感染したら」など感染を自分事として捉え、相手の気持ちを推し量る機会を持つことです。

さらに、このコロナ禍に対する人権教育を他の今日的人権課題に結び付け、集団の形成者としてどうすればよいのかなど、日常的に話し合うきっかけにさせていただきたいと思います。各校の実態に合わせて人権教育の弛まぬ推進をお願いします。

本年度も人権教育の日常化を推進していくために、以下の2点の取組への御理解・御協力をお願いします。

【令和3年度の取組:変更点など】

- (1) 人権・同和教育学校訪問<廃止> → **前期・後期学校訪問での人権教育の視点を通じた授業実践**
→ **「授業づくりシート①(人権教育の日常化に向けて)」の活用**
- (2) 人権教育担当者研修会 <集合・対面研修:年間1回>
→ **オンライン研修<年間2回 ①6月23日~7月14日②2月22日(火)>**

※令和2年度と同じく、人権教育担当者研修会と研修講座を分けて実施

※研修講座(人権教育)は人権教育担当者の知識的側面を充実させるため、これまで同様悉皆研修

前期・後期学校訪問校内研究会での人権教育の視点を通じた授業実践について

令和元年度まで「人権同和教育学校訪問」を隔年(11月~1月)で行ってまいりました。しかし、具体的な取組や実践がこの期間に集中し、取組を他の時期に行ったり、広げたりすることが難しいという課題がありました。

そこで、**年間を通して人権教育の意識を持って**いただけるよう、人権・同和教育学校訪問を廃止し、その代わりに日常的に人権教育の視点を意識した授業実践をお願いします。そして、先生方の授業における人権意識を自己評価するために**「授業づくりシート①」**(資料1)を作成しました。

以下に、Jin先生、レオ先生から説明してもらいます。



「授業づくりシート①」のねらいについて教えてください。

「授業づくりシート①」のねらいは2つあります。

- ①先生方に日々の授業の中で、自分がどのように児童生徒と接しているかを振り返り、人権教育の視点を通して、その「意識の度合い」を自己評価していただくことです。そうすることで、先生方一人一人が自分に必要な授業改善につなげていただきたいと思います。**()空欄**を設けてあるので、ご自身の個性に合わせ、**主体的**に取り組んでください。
- ②このシートをもとに教員間で話し合い、お互いの意識のポイントや取組を共有し、**組織的な改善**につなげることです。そのような取組を続けていくことで**指導技術の継承**になればと考えています。



Jin先生

具体的に「授業づくりシート①」の一部を見てみます。

A		授業の見取りの観点例	意識の度合い
①	人権・同和教育、ユニバーサルデザインの視点	すべての児童生徒が、安心して学習に取り組むことができる配慮をしている ・一人一人の学習意欲や特性等を捉えているか。 ・個の意見を大切にす等、一人一人が安心して授業参加できる雰囲気を作っているか。 ・個の言動を大切に、認める声かけをしているか。 ・見通しのもてる学習活動であるか。 ・自己決定・自己選択の機会を設定するなど、主体的な活動に結びつけているか。 ()	
②	聞くこと	児童生徒が意欲的に聞くことができる指示や提示をしている ・すべての児童生徒が意識して聞ける環境を整えてから、指示をするようにしているか。 ・的確で分かりやすい指示や説明となっているか。 ・興味関心が高まる課題の提示とともに、話をしているか。 ()	B

Aについて



人権・同和教育とユニバーサルデザインの視点がまとめて書かれていますが、同じ意味なのですか？

「すべての児童生徒一人一人が安心して取り組めるように配慮していく」ことが人権教育の視点です。特別支援教育で言われているユニバーサルデザインの視点については、レオ先生に教えていただきます。



Jin先生

ユニバーサルデザインの視点は、通常の学級の授業において一人一人の特性等に配慮した指導・支援の工夫を図ることにより、「特別な教育的支援が必要な子どもだけではなく、**すべての子どもにとって「分かる・できる」授業を構築する**」ことです。



レオ先生

つまり、特別支援を必要とするかどうかに限らず、「児童生徒一人一人に配慮して取り組む」という点で、人権・同和教育の視点とユニバーサルデザインの視点は重なり合うと言えます。



Bについて



各項目の「授業の見取りの観点例」の下にある空欄()がありますが、何を記入すればよいのですか？また、全部書かなくてはいけないのですか？

この空欄()には、先生一人一人が心がけていることや学校で共通理解を図っていることなどを記入できるように工夫しました。先生たちに主体的に考えてもらうため、最低限の観点例しか載せていません。観点の他、具体例でも結構です。

また、主体的な記入ですので、全部書かなくても大丈夫ですが、学校でどんなことに気をつけていかなど共通ポイントを設けて記入したり、「人権・同和教育の視点及び具体的な取組一覧表」を参考にしたりするとよいでしょう。



先生たちに「自己選択・決定の場」を設定したのですね。「聞くこと」に関して、自分ならどんなことを大切にしているかな…。威圧感を与えないように、子どもの隣に寄り添って話をすることかな。他の先生たちはどうか、ちょっと知りたいですね。

「授業づくりシート①」については、前期学校訪問や人権教育担当者研修会で説明し、後期学校訪問で正式に全員の先生に記入していただきます。

本シートのとりまとめ及び活用については、人権教育担当の先生を中心にお願います。また、各校の研究に活用することもできると考えていますので、人権教育担当者と研究主任が協力し合い、よりよい学校づくりの1つのツールになれば幸いです。是非、活用例を解説したシート(資料2)も御一読ください。よろしくお願います。